

# 年度のまとめや新年度のスタートに月例報告を活用する

4月から不登校はどのくらい増えているのかな？

今学期、保健室によく来ていた子供たちは何日休んだのかな？

自分の学級や学年の様子はわかるけど、学校全体ではどうだろう？

新年度のスタートにいかしたいな・・・。

**今年度の校内のデータをまとめて、成果と課題を教職員で共有し、次年度につなげる。**

## 月例報告でわかること

【学校調査票①】

学校名 \_\_\_\_\_ 担当教員氏名 \_\_\_\_\_

1 不登校児童生徒に関する調査 ( ) の数(一致すること)

2 不登校児童生徒について

3 休みの様子

4 関係機関との連携(人)

5 問題行動等

6 いじめの認知

【学校調査票②】 調査Ⅳ 児童生徒の7日以上欠席者に関する調査

学校名 \_\_\_\_\_ 担当教員氏名 \_\_\_\_\_

理由別区分	1年		2年		3年		4年		5年		6年		計
	7日~29日	30日~											
①病気													
②経済的理由													
③不登校													

データが管理職と生徒指導担当のみの閲覧で終わっていませんか？  
より広く情報を共有することで、子供の異変を察知できた事例も多くあります。多くの情報を持つ養護教諭や学年主任、特別支援教育主任等にデータを見てもらうことも考えられます。

## 不登校・長期欠席に関しての活用例

### ○新規・継続の不登校児童生徒数を分析する。

(中学校例) H29 合計10名  
H30 合計12名 **2名増ですが・・・**

#### 〈内訳〉

H29年度	H30年度	
3年生2名	→ (卒業)	
2年生4名	→ 3年生5名 (継続3名/新規2名)	
1年生4名	→ 2年生4名 (継続3名/新規1名)	
(6年生3名)	→ 1年生3名 (継続2名/新規1名)	
<b>11名</b>	<b>継続は8名</b>	<b>新規4名</b>

### 【成果】

H29年度に不登校だった生徒のうち、3人は復帰もしくは29日以下の欠席にかわりました。学校の成果です。

### 【課題】

新規の不登校生徒が4名います。休みははじめの対応はどうだったのでしょうか。「魅力ある学校づくり」も、もう一度見直してみましよう。

### 【分析の視点例】

- ◆3月までの欠席状況を見て、どの学年の誰が、どんな理由で30日以上欠席しているのかを分析する。
- ◆月ごとの不登校状況を確認し、どのような対応・支援を行ったのかを振り返る。
- ◆月ごとの「7日以上欠席」の状況を確認し、急増した学年や月、その理由(行事や人間関係等)を分析する。

### ここがポイント！

## 新年度体制に向けて〈取組例〉

- ★不登校を生まない「魅力ある学校づくり」を推進する
- ★休みははじめの対応を決める
  - ・月ごとの「7日以上欠席」を共有する。(掲示等)
  - ・欠席が〇日続いた場合、担任と〇〇担当が家庭訪問を行う。〇日続いた場合、ケース会議を行う。
- ★スクリーニング会議の効率化や見直しを図る
  - ・欠席、遅刻、保健室来室、う歯(虫歯)数、諸費用支払いの遅れ等、スクリーニングシート項目の整理・見直しをする。
- ★関係機関や連携手順を確認する
  - ・年間の月例報告から「教職員以外での支援の状況」の特徴を分析する。
  - ・関係機関の役割や校内担当者、教育相談コーディネーター等を確認する。

分析したことを次の学年に引き継ぎますね。